



<玉ねぎの収穫が始まりました>



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます
URL <http://www.naranature.com>



総会・レポ	1	追憶の旅路～友と山	9
ならやまプロジェクト	2	コナラとクヌギのお嫁入り	10
Monthly Repo ならやま	3	組織体制変更のお知らせ	11
里山の今（景観・パト）	4	Gallery	12
佐保川小学校学習支援・レポ	5	山本妙子さんを偲ぶ・自然教室案内	13
安全講習会・レポ	6	行事案内	14
平城宮跡草刈り・レポ	7	幹事会報告・編集後記	15
仲間入りしました・奈良学クイズ解答	8		

第22回

通常総会 開かる

田中 善英

<会長挨拶>

ようやく元に戻ったんだなあ との嬉しい思いでいっぱいです。コロナウィルスによる脅威は消えたとは言えないまでも、感染症分類が「5 類」に変更されたこともあり、社会はアフターコロナの様相を見せています。思えば 2020 年は議決投票による議決、翌 2021 年にはオンラインの併用、2022 年は懇親会はお預けでした。本年度はそうした制約がほとんどない通常総会を開くことができます。

2001 年に創立されて以来の理念である「自然との共生」「地域社会への貢献」「生き生き活動」、活動のモットーである「明るく 楽しく 無理をせず」は不変の基本として受け継いできていますが、私が会長就任にあたって「あなたも私も 力あわせて」を加えさせていただきました。高齢化や会員数の減少がうかがわれる中で、12000 歳の知恵を絞って何とか力をあわせることで活動が後退することのないよう願ってのことでした。そのためにはまずは会員がお互いを知らなければとの思いからアンケートを実施し、会の主体であるならやまプロジェクト活動について理解を深めるために報告会も実施しました。すべては「何のために」「どこで何を(どのグループのどのような活動で)」「どのようにして」協力しあわなければならないのか、がもう少し共有できればとの思いでした。

総会は会員のためにあります。実態を共有する貴重な場であり、「力を合わせる」意義やその目的、具体的な事柄について一緒に考えることができればと思います。そのために、既知の報告は簡略化し、各グループには実際の活動についてわかりやすい説明をお願いしています。

形式ばらずにざっくばらんな意見交換ができることを願っています。

<レポ>



去る 5 月 20 日、中部公民館にて第 22 回通常総会が開催されました。参加者数(36)およ

び委任状(88)により総会が成立したことが確認された後、会長挨拶に引き続き、議長に塩本さんが選任されて、議事が進行しました。

第 1 号議案 活動年度変更(会則改定)

第 3 号議案 役員補選

について審議され、いずれも満場一致で承認されました。

続いて、活動状況の報告(第 2 号、4 号議案)が各担当、各グループから行われ、活動の現状と



今後の方向についてプロジェクトも使っているのわかりやすい説明があり、活発に意見が交わされました。

また、会長から各グループに対して「現状や今後の活動等について、ならやまの地図上に示して公開するなど、情報の共有化を推進して欲しい」との要望がありました。次に会計収支報告と監査報告、次年度の予算について説明があり、満場一致で承認され、予定通り 15 時に閉会しました。



16 時より、場所を変えて、3 年ぶりに総会後の懇親会が開催されました。

会長の挨拶と乾杯の発声で、賑やかに始まり、大いに盛り上がり、歓談の輪が広がりました。最後にカラオケが始まり、みんなで輪になって、肩を組み、青い山脈を合唱して、終会となりました。久しぶりに楽しく、会の結束と友情を確認できた、楽しい時間を共有することができました。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

里山林からはチェーンソー、里地のあちらこちらから草刈り機のうなり音が聞こえる。ならやま全体に活気があふれ、草木もどんどん成長する。1週間経つと雑草がはびこる。これから暑さの中での雑草との闘いが始まる。今月は15年続いている佐保台小学校児童を迎えての田植えがあり、夏休みにはイベントを楽しみにしている子供たちを迎える。安全な環境で思い出に残るようなイベントを楽しんでもらうためにも整備が欠かせない。熱中症に注意しながら「無理をせず」に「力を合わせて」何とかやり遂げたい。

冬に採集したカブトムシの幼虫たちは大量の枯葉を食べて順調に育っているようだ。夏のイベントには子供たちにとって素晴らしいプレゼントになるだろう。

6月の活動特記事項

6月1日(木): 協働活動(アダプトプログラム、シイタケ榎木本伏せ・天地替え)

6月8日(木): 協働活動(佐保台小学校児童を迎えての田植え)

6月22日(木): 春の感謝祭

6月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	シイタケ榎木本伏せ・天地替え 里山林内整備(No.23,24付近)、榎木置場整備(学びの森・遊びの森南)、薪割り、No.4 テント倉庫屋根補修 ユート: アカマツの森でのマツの間伐整備
エコファーム	田植え(準備および佐保台小学校児童を迎えての田植え)と水田除草 スイカ・ナス・落花生・ピーマンの定植 鹿ネットの整備
景観	整備: ベースキャンプ周辺・彩の森草刈り、ミツバチ巣箱整備 ビオ: 池・水路保全、環境整備 花: 樹木・花の草引き
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備、笹草刈り きたかべ観察会(4回実施) テント倉庫屋根補修
果樹	鹿よけフェンスの設置、実りの森の除草、ウメの収穫

活動日: 毎週木曜日 9:00~15:00

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

冨井 忠雄

4月27日(木) 晴れ 67名+2名(近大生)

5月4日の平城宮跡草刈りへの参加者募集と当日の実施計画を確認。

里山Gは藤棚の下へベンチの設置、薪棚新設、自然の森観察路倒木処理。エコGは玉葱収穫(べと病の拡がりが見られるため早めに収穫)、レタスの種播き・移植、畑の除草など。景観Gは彩の森の草刈り、筍掘り、平城宮跡の草刈りの準備。花班は山野草園・道路沿いの草引きなど。ビオトープ班は近大生参加でタナゴ池へのベタキン移入作業と水路の泥上げ。パトロールGは3コースのパトロール、観察路周辺整備。果樹Gは山菜の収穫、鶏糞の引き取りなど。



5月4日(木) 晴れ 59名

平城宮跡の一部(約5000㎡)の草刈り実施。

里山Gは薪割り、薪棚新設、藤棚の誘引柱の設置など。景観Gは平城宮跡草刈り。花班は道路沿い花壇の草引き。パトロールGは1コースのパトロール、四季の丘草刈り、丸太階段整備など。果樹Gは山菜の収穫、フキの植込み、グミの鳥よけネットの設置など。

5月11日(木) 晴れ 67名

梅に詳しい上田さんが見学に来られ、その場で当会に入会された。

里山Gは、No.5地区の整備、桧玉切材の皮むきなど。エコGは水田苗床の整備、カボチャ

の植付けと行燈かけ、タマネギなどの収穫。景観Gは佐保自然の森の草刈り、JR側緑陰広場の草刈りなど。花班はイチハツの草引き、自転車道沿いの草引き。ビオ班は水中ポンプを使って西池の泥上げ、ザニガニの駆除など。パトロールGは3コースのパトロール、観察路の保護植物の回りの草刈りなど。果樹Gは山菜の収穫、南側斜面とブルーベリー畑の除草など。



5月18日(木) 晴れ 69名

+1名(実習生)+3名(近大生)

昨日から気温が急に上昇、暑さになれない中なので、熱中症に対する注意喚起がなされた。あわせて、名札裏側の防災緊急カードへの記載についても確認がなされた。

JAから指導者を招いて会員向けの安全講習(刈払い機、スパイダーモア)が実施された。シニア自然大学校から実習生1名が参加。

里山Gは学びの森椎茸置場の間伐整備、ベンチ設置、薪割りなど。ユートピアは赤松林の南西斜面の雑木や笹などを刈り取る。エコGは種播き苗のポットへの移植、サツマイモ苗の植付け、玉葱・レタス・そら豆などの収穫。景観Gは安全講習の手伝い、彩の森の草刈りなど。花班はアガパンサス栽培地などの草引き、自転車道沿い花壇の草引き。ビオ班はビオエリアの草刈り、近大生との共同定期調査など。パトロールGは3コースのパトロール、エントランス広場の草刈り、数珠玉生育地の整備、テントの補修など。果樹Gは実りの森の除草、ウドの管理棚の設置、南側斜面の石などの除去。

景観グループ

バイオエリアの今

田中 善英

入会した初日にバイオが面白いよと言われ、やってみようと、主に景観グループで活動を始めて5年。教えてもらいながら、インフラの修理から始めました。

バイオが出来てから10年余り、橋や木道、タナゴ池、西池の法面などのインフラが老朽化し、水の流れが変わり、西池北側の湿地が陸地化していました。そこで、先輩の助けを借りながら、インフラの更新から始めました。

ちょっと溝や池を掘ると、腐った杭や竹、材木、ブロックがザクザク出てきます。今までの工事、修理の苦勞の跡です。沢山の人が関わったんだろうなと思いながら、元の形にもどそうと作業を続け、多くの人の協力を得て、やっと今年の3月に大きな工事は終わり、水の流れるようになりました。



バイオエリア

しかし、「終わったなあ」と思って眺めてみると、「何か自然の温かみが減ったなあ」と感じます。ここ数年、カルガモの夫婦が偵察にきても卵は産んでくれません。カワセミも来ますが、暫くするといなくなります。カエルや昆虫はいますが、数は少なくなったようです。

バイオは多様な生物(もちろん人間も)が生存する空間です。でも、このバイオエリアは多くの生物に気に入られる環境ではないのではと感じます。ハード面の整備は一区切り、次はソフト

面の充実です。

多くの知恵を集めて「生物が溢れる場所にしたいな」と思いながら、今日も長靴履いて、水の中です。



(ドジョウ池の水質調査)



パトロールグループ

春の活動あれこれ

守口 京子

コオニタビラコ 1月の七草がゆのとき、見つからなかったのに、花の咲くころに探そうと思っていました。4月、田んぼの周りや駐車場などあちこち歩き回りましたが、よく似たヤブタビラコは割とあるのに、なかなか出合えませんでした。あきらめて帰ろうとしたところ、自動車のタイヤのそばでやっと発見しました。その後、竹藪の辻の南でも、たくさん見つかりました。そのワクワク感は宝探しのようです。



刈払い機 草萌える季節となり、どこのグループも草刈りに追われます。パトロールGも刈払い機を出してきたものの、「どうすんねんやったかな」と去年のことがなかなか思い出せず、周りの方に教えてもらいます。作業を始めても、機械の調子が悪く、またまた周りの方に、部品を替えてもらったり、替わりの機械を貸してもらったり、調子を見てもらったり、大勢の方に助けていただきました。ありがとうございました。これに懲りずまたよろしく。

北壁(きたかべ) 2月、ショウジョウバカマの世話に行ったとき、ついでに北壁をのぞいてみました。ここはずっと整備をせず、立ち入り禁止区域として保存されてきた場所です。常緑広葉樹とシダが茂り、林床には草が生えていました。薄暗い林に木漏れ日が差し込み、気持ちのいい空間でした。今年はここで観察会をしよう決めました。準備が進み、期間限定の観察路が出来上がり、植物の同定をしているところです。6月に観察会をする予定ですので、皆さんどうぞご参加ください。詳しくはならやまにてお知らせします。

佐保川小学校

自然観察学習支援・レポ

(春の樹木授業)

小島 武雄

平成5年5月1日

自然教室・学校支援は、佐保川小学校で行われました。4年生2クラスの自然観察です。9時30分と、10時35分の2時限の予定で行われました。

校長室でお聞きした、今回のテーマは「あたたかさと生き物」。

朝8時30分、五月晴れ、爽やかな風の吹く校庭に自然観察のメンバー7名が集まりました。

それぞれ準備した、班分けの番号ゼッケン。植物表示シール。樹木写真、樹木利用例の写真パネル、付箋をいっぱい付けた図鑑などを持ち寄り、やる気満々！千載会長も来てくれました。

子どもたちが校庭に集まるまで1時間余り、各ポイントにて説明する樹木を全員で事前確認します。

佐保川小学校には、たくさんの樹木が植っていて、対象樹木は全部で、21種もあります。子どもたちに楽しく興味を持ってもらうこと、飽きさせずに話をするのが課題です。

樹木の名前を知ってもらう事よりも、春の柔らかな若葉を指でつまんだり、咲いている花の匂いを嗅いだり、ちょっと味見したり、木肌のザラザラやゴワゴワに手を当てて感じる事など。そして、この木がどのように利用されているか。そして、これから夏になったら、どんな風になっているか？を想像させるように。

元気いっぱい、わーっと、子どもたちが校庭に出てきました。先生の号令！「前へならえ、姿勢を正して」。一緒に「おはようございます」。「よろしくお願いします」。いよいよ始まりました。

最初に千載会長から「今年是一年間、自然観

察、春から冬までやりますよ、楽しく学んでください」。

校庭の小さな築山では、クスノキ(葉の匂い、小さな花)、ウメ(緑の小さな実)、ハナミズキ(花が少し残っていた、ハナミズキと桜をアメリカと交換した話)、ヒラドツツジ(花の構造、虫を呼ぶ点々模様)、ソメイヨシノ、イロハモミジ、カエデ(プロペラの種とカエルの手)、ビワ(小さな緑の実)、イチヨウ、アキニレ、クロガネモチ(葉に文字が書ける、タラヨウのハガキの実物を見せる)、カナメモチ(赤い葉に囲まれた白い花)、クヌギ、イチイガシ、ドウダンツツジ(小さな白い花)。さらに、駆け足で行った校庭の隅っこには、キリ(種が運ばれている、下駄の写真)、フェンスには、スイカズラ(白い花の香り、蔓)、ミツバアケビ、ヤマモモ(四季の変化、雄花と雌花、食べられる実)、ケヤキ(ほうき状の樹形)、ユズリハ(古い葉は落ちる)、サクラ(小鳥の食べる実)。

子どもたちに囲まれて、どこまで話せたのか、あっという間に終わりです。



(班番号を胸に、子どもたちに最初のお話)

子どもたちの発見は、小さな青虫、ゲジゲジ、カエル、セミの抜け殻、どんぐりから出て来た根、虫コブなど、どんどん興味、関心が広がります。終わり頃には、話を聞いてない子もいて、少し飽きた様子も。

最後に、千載会長から、「また夏に会おうね」の挨拶。子どもたちから「夏って、いつ？」の質問あり。

安全講習会レポ

飯島 八重子

例年にない暑さの5月18日、彩りの森にて安全講習会が行われました。朝の朝礼での呼びかけもあり、女性7名を含め総勢26名の参加者がありました。

9時40分に参加者が集まる中、パトロールの小島さんや本日指導して下さる農協の廣田さんから講習会の挨拶があり、まず草刈り機の使用に際する注意点から、特に一番重視する事は安全に使用するという事でした。



J A講師による、安全について注意説明
廣田さんからは以下の説明がありました。

- ① 怪我をしないようにする。
- ② 人に怪我をさせないようにする。
- ③ 作業前の機械の点検をする（他の人が使用した後も安全とは限らないので必ず自ら点検する。）
- ④ 安全な服装で作業する。（エプロンやゴーグルは目の保護に必要、安全バンドは必ず付ける事）。

また実際に一番多い事故としては草刈り機の音で危険を知らせる周りの声が聞こえない為の怪我や、作業近くに寄りすぎ飛来物に当たったり、機械に当たったりして身体的損傷を受けたりする事故の具体例を挙げて、そういう事故を防ぐ為にも、活動時の合図や約束等を取り決めておいてから、作業に取り掛かった方がよい等のアドバイスもしていただきました。

次に作業時の動き方についても実演され、

平地や坂道での動作一つでも事故に繋がる事がある等、参加者は廣田さんの説明一つずつにうなずきながら真剣に聞かれていました。

一通りの説明が終わり、次に草刈り機を使っ
ての草刈り体験をすることに。まず4班に分かれ、それぞれエプロン、フェイスガード、ゴーグルなどの安全装備を身に付け、グループごと一人ずつが実際に草刈り機を使っ
ての草刈り作業に取り組みました。

また10時15分頃よりスパイダーモアやモアという名の草刈り機の説明も行われ、それぞれの草刈り機の特徴などの話を聞きながら熱心にメモを取ったり、操作方法を聞く参加者の姿もあり、実際の草刈り機体験をされていました。



自走式草刈り機（モア）の取り扱い注意



運転の実習指導

ここで参加者の方の声を記載させていただくと、「こういう講習会で体験する事はやはり必要ですね」という声や「普段使い慣れていない草刈り機なので、機械のスイッチ等、実写真を使った取り扱い説明書をそれぞれに付けておいてくれたら、たまに使う者にとっては有難いんやけど・・・」などの声がありました。

何度も練習する人や機械を色々変えて動かしている人など、講習会は熱気にあふれて10時45分事故もなく無事終了しました。

今回の講習会は一に安全、二に安全に作業するという観点からも良い講習会内容でした。

平城宮跡草刈り

太田 和則

午前8時、ならやまベースキャンプに全員集合し事前に準備した機器等を2台の軽四輪に積み込んだ。段取りよろしく少し早めの8時20分に出発。平城宮跡東側、東院庭園の南に位置した田圃の草刈りである。今回で4回目の奈良県景観・自然環境課からの依頼である。田圃は昨年秋の3面から4面になり、5000㎡に増えた。



過去の3回とも雨に遭い順延の目に遭う。取り敢えず5月4日の天候不順ゾーンで設定したが案の定、雨模様の怪しい予報が出た。

春は本当に天候が安定しない。雨が降ると田圃だけに水田の中で草刈り機を振り回す羽目になる。効率は非常に悪くなる。

予報と睨めっこしながらだったが、ゴールデンウィークの中盤は晴天が続き、気温25度の夏日の晴天となった。暑くなる前に終わらせましょうと声をかけあって持ち場に着いた。



今年も各グループの草刈り名人が駆けつけてくれた。作業前の写真(集合、現場草刈り前)、田圃の割り振りをし、刈払い機10台、スパイダーモア3台、自走式モア1台のエンジン音の轟音と共に一斉スタート。刈払い機とモアの合わさった音が“ゴー”

と5月の青空に響き渡った。



これだけの人数での草刈りは壮観である。午前中にある程度の目処をつけておきたい思いが全員にみなぎる。おかげで12時までに作業完了(実動3時間)。午後1時前にはベースキャンプに到着。午後は道具の掃除、機器等を格納して終了。今年もゴールデンウィークの中、各グループの協力ありがとうございました。

大切な行事の一つになりました。



草刈りは“後ろを振り返る”と成果がすぐにわかる。気持ちがいい! しかし1~2週間すると元の木阿弥……。成果は残らないが記憶の中に!

今回16名にご参加いただきありがとうございました。本当にお疲れ様でした。また、参加されないが準備等いろんな形で皆さまにご協力をいただきました。ありがとうございました。

それでは又 “平城宮跡秋の陣”で。





仲間入りしました



和田 陽子

辻窪 有紀

夫の退職を機にいこま棚田クラブでボランティアを始めて8年が過ぎました。

ならやまは、その中で先輩たちより聞いて知っていましたが、活動日が仕事と趣味の卓球練習日と重なり、入会は無理と思っていました。

昨年「シニア自然大学校」より「奈良・人と自然の会」に実習で参加させていただき、カブト虫の幼虫を数えた事は、生まれて初めての貴重な体験でした。

ドングリから発芽させて植樹されている事も感銘を受けました。

8月には燕の埒入りに、シニア同期数人と同行させていただき、ずっと見たいと思っていた光景を見ることができて嬉しかったです。

活動日以外のイベント参加だけでも、と背中を押して貰って入会させていただきました。なので皆さまとはあまり会う機会が無いかもしれませんが、どうぞよろしくお願いします。

4月から参加しています。出身は生駒郡平群町です。小さい頃は、山の中で遊んだり、空き地で虫取りをしたりと、自然の中で育ちました。

大学時代はワンダーフォーゲル(ドイツ語で渡り鳥)部に所属していました。山岳部ほどは厳しくない、みんなで山に登ろうというようなクラブで、10名前後の女子部員でテントと食料を担ぎ、日本各地の山に登っておりました。数日間の山行とテント暮らしは体力的にもきつかったはずですが辛い記憶は薄れ、楽しかったことばかりが思い出されます。

現在、年に1、2回低山に登る程度で、もっと自然の中に入りたいと思いこちらに参加させていただくことになりました。パトロール班でいろいろ植物について教えていただきいろんな知識が増えそうで楽しみです。仕事の都合で月1回程度の参加になると思います。



[奈良学クイズ5月号解答]

問 1	五重小塔	
問 2	①「ガゴジ」	○
	「ガゴゼ」	○
	「ガガゴ」	ガンゴ
	「ガガボウ」	ガンボウ
	②「大和霊異記」	日本
	③藤原	蘇我
問 3	(真)(言)(律)宗(元)(興)寺	



追憶の旅路

～ 友と山 ～

木村 慎司郎

故郷に小高い山がある。正しくは低山の連なる尾根の突端だが、生まれた時より家より見上げる山容は、ひいきめでもあるが独立峰のイメージに他ならない。その山頂に雲雀（ひばり）城と呼ばれた、戦国時代の城跡がある。城主は三代続き、三吉・尼子に仕えていたが、転出して廃城になったという。城の攻防戦で、山腹に竹の皮を敷き、敵の攻め登りを防いだ、という伝説が、今でも地元に残っている。

少年時代、本好き歴史好きという共通趣味の友人二人に城跡を案内した。平らな山頂本丸跡の生い茂った草叢を探検し、素朴な縄張り見取り図を書いて満足したものである。

眼下には、古い家並みを貫く出雲街道（石見銀山街道とも）と、古代山陽道沿いに東へ流れる御調川（みつぎがわ）。

友人二人とは共に遊び、維新の志士を気取ったり、時には、遠方にある島の新設海水浴場まで行き、野戦用蚊帳持参で寝泊まりしたこともある。

田舎の学校を卒業した後、一人は若くして自ら命を断った。失恋とか身体の不自由とか、噂はとびかったらしい。執着や雑念を彼なりの決断で消した、死そのものの事実を、私は淡々と受けとめたはずだ。

一人は音信が途絶え、再会したのは四十年余が過ぎてからである。「お前は若い時より顔が陰しくなりすぎている」と彼は言い、まあ会社勤めで苦勞しただろうから無理もない、と言葉を続けた。いやそれは、私が彼を見てすぐに言いたかったことなのだが。その彼も逝った。私の過ぎた人生の一部である。

夢多き時代には山に憧れ、穂高縦走もした。奥穂高岩稜にはモルゲンロートが輝く。バラ色

に染まった岩肌は、自ずから未来への意欲を掻き立てるものがあった。自然とふれあいながらの旅、青春への想い。

北ア・五竜岳では、キレット小屋テラスで一休み中、縦走路より滑落の単独行者を目撃する。数百米続くガレ場への到着寸前、ハイマツ地帯末端で必死に繁みにしがみついたらしい。大自然の真只中、スローモーションの様に回転しながら、繁みの中に落ちた映像が忘れられない。その後、小屋常駐の山岳救助隊が、ザイルを持って急行、救助したことはいうまでもない。

南ア・鳳凰三山では登高途中、下山の中高年団体とすれ違った。急坂で、先行者の手がかり、足がかりが分らないらしい。一人の女性が「何処へ手を置きゃあいいの」と叫んだ。その途端、懐かしさや親しみの伴った異様な感覚が生じた。後続の男性に、どちらからと聞いて、はじめて同郷の山登りグループと知った。思いもかけない場所での出会いもあるものだ。そして地方文化の訛にも感激。

心身の疲れを自覚し始めた近年、同好の士と熊野古道、中辺路を歩き、雲霧にかすむ本宮旧社地、大斎原（おおゆのはら）を遠望した。多情多感な和泉式部は、感激のあまり靈感に打ち震えたという。私も、夢幻的な神話の世界にいざなわれ、畏敬の念と共に、時を超えた無常観につつまれたものである。

やがて私もまた、故郷の山に登るだろう。溪流で冷やされたビールは青春のように悲しかった、と詠んだ若き詩人は、故郷の吹きくる風を「ああ、おまえはなにをして来たのだ」と聴いた。友が去っても変わりなき山河を眺め、私は何を思うだろうか。

からまつはさびしかりけり

たびゆくはさびしかりけり

－ 北原白秋「落葉松」 －

蕭々（しょうしょう）と鳴る風は私の鎮魂歌である。

コナラとクヌギのお嫁入り

青木 幸子

3月のある日、いこま棚田クラブのNさんからお電話があり、ならやまのコナラを5本ほど分けてもらえないか？ということでした。

2月にならやまのイベントで40本植樹した後だったので、いい木があるかどうかわかりませんが・・・ということで、里山グループに相談したところ「分けてあげたらええがな」で即お返事。翌週にはもうSさんが10本掘って準備してくださっていました。

コナラ5本とクヌギ5本をそれぞれ袋に入れ、ならやまベースキャンプまで運んで、分かる場所に置いて取りにきていただきました。



4月6日の活動日、わざわざいこま棚田クラブのお二人がお礼の挨拶に来られ、4月10日、無事、棚田クラブの里山（向山）に植樹されました。

ならやまのドングリから育てたコナラ・クヌギがいこまの里山でも育つことになったのです。



△

奈良・人と自然の会は20年近く前、活動拠点をどこにするか、あちこち探していました。ちょうどその頃、今の生駒山の東斜面の棚田で棚田再生の話があり、地権者と協力して活動を始めることになったのです。当会の原点といえ

る活動が始まりました。同時期に国有林の間伐整備作業の話もあり、そこでも5年間汗を流しました。その活動の成果でしょうか？今のならやまプロジェクト活動に繋がっています。ですからいこま棚田クラブと当会は兄弟みたいなものなのです。当会の古い会員さんたちは、元いこま棚田クラブの会員だったのです。

そのいこま棚田クラブにコナラとクヌギがお嫁入りしました。



棚田クラブで 川井さん・阿部さん・弓場さん 西谷さん

△

生駒の里山とならやまでは環境も地質も違い、どちらの成長が早いかわかりませんが、どちらもすくすく大きくなってくれたらいいな、と思っています。大きくなった20年後はとも見ることは叶いませんが、次世代の人たちに見上げてもらえたら嬉しいなと思います。



組織体制変更のお知らせ

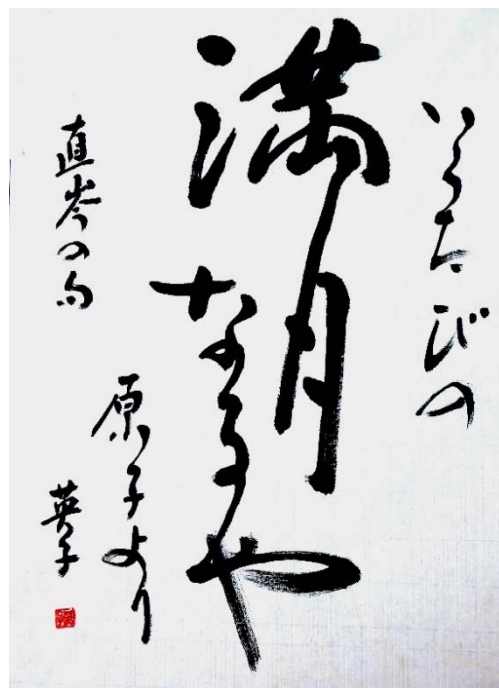
千載 輝重

先般開催された第22回通常総会の後の幹事会において、組織体制の変更について承認されましたのでお知らせいたします。役員一同、新たな体制による会の円滑な運営に努めてまいりますので、会員の皆さまのご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

奈良・人と自然の会 組織体制表				2023.5.20	
<役員>					
幹事	青木幸、飯島、有元、太田、尾崎、清原正、小島、千載、田中善、戸田、富井、富江、				
	豊田、福田、藤原、三瀬、山上、山本隆・・・18名				
監査役	吉川				
<役職>					
会長	千載				
副会長	太田、小島、富井				
会計	尾崎、有元				
顧問	鈴木				
参与					
<組織>					
部門	部長	グループ	GL		チーフ
総務部	千載				
		事務	田中善	庶務	田中善、青木幸
				渉外	戸田
				イベント	富井
				助成金事業	小島、田中善
		会計	尾崎	会計・出納	有元
		広報	田中善	会報誌	青木幸
				HP	尾崎
ならやま事業部	富井				
		管理			富江、青木幸
		里山	山本隆	副リーダー	平山、清原正、福田
		エコ	三瀬	副リーダー	富江、藤原、佐竹、池山玲、青木芳、吉村
		景観	太田	副リーダー	内河、田中善、宝田
		パトロール	小島	副リーダー	山上、飯島、塩本
		果樹	有元	副リーダー	尾崎、豊田
自然文化部門					
		月例	戸田	副リーダー	青木幸
		自然教室	小島	副リーダー	山本美
		自然工作	飯島	副リーダー	桜木、村上



写真 キラリ〜☆ 國方 まり子



書 吉田 英子



陶芸 多肉鉢
(黒土に黒天目釉ベースにわら白の
重ね掛け施釉 酸化焼成) 西岡 正平



木工 家具解体しプランターに 守口 京子

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

「ああ、君待つと」・山本妙子さんを偲ぶ

吉川 利文

5月18日、活動日の朝礼で、山本妙子さんの訃報が報告された。私はめまいを催しながら、頭の中では二つの歌が流れているのを意識した。そして、短いながらも鮮明に残る思い出にふけていた。

5、6年前だったろうか、活動日の昼食時、私の横に坐っていた山本さんが、友人に歌を唄って聞かせていた。「^{たかつ}高津の宮の昔より ^{よよ}世世の栄を重ねきて…」^{さかえ}。なんと懐かしい。今は亡き私の長兄が学生時代、よく口ずさんでいた歌ではないか。その半世紀以上前の光景が甦る。

昼食後すぐ山本さんにお尋ねして、これは「大阪市歌」であること、ご自身にとっても出身地の懐かしい歌であることが分かった。せっかな私はなんとか歌詞や楽譜がほしい、とねだったところ、次の週、持参してくれた。

うれしかった私は返礼として、そのころ覚えたての「万葉恋歌 ああ、君待つと」という歌の歌詞と楽譜を差し上げた。^{ぬかたのおおきみ}額田王らの万葉歌に新井満が曲をつけたロマンチックな歌だ。

山本さんはとても気に入り、「いい歌ですね。いつか一緒に唄いましょう」と約束してくれた。

しばらくその機会はなかったが、数年前の当会の忘年会。カラオケ合戦となったころ、山本さんがそっと私に近寄り、「“アレ”をデュエットで唄うよ」とささやいた。遂にきた、と思ったのに、「合戦」は間もなく終了。カラオケの曲の中に「ああ、君待つと」はなかったようだ。

古い会報誌に、当会の創設者川井秀夫さんが「多士済々」というコラムに山本さんを「おキャンな人」と紹介している。川井さんによると、おキャンとは、関西弁で、活発で明敏な人を指すという。そのままの生涯だったようだ。そんな人柄を偲びつつ、「ああ、君待つと」を私はいま独り万感を込め、口ずさむ。合掌。

自然教室・番外編のご案内

京都大学理学部植物園見学・ 周辺社寺樹木散策

小島 武雄

自然教室の番外編として、京都大学理学研究科植物園と北白川試験地の見学を行います。

実施要領

1. 日 時：6月19(月)9時30分
～14時 雨天決行 (予定)
2. 集合場所：叡山電車・出町柳駅改札口前
(地上)
3. 持ち物他：弁当、飲み物、歩きやすい靴
4. 費 用：現地までの往復交通費
5. コース：9時30分「出町柳駅」～知恩寺～
京都大学理学研究科植物園(10時～約1時間
見学)～北白川試験地(見学30分程度)
～吉田山頂(標高125m:大文字山を望む)、
昼食～大元宮～宗忠神社～真如堂～黒谷金
戒光明寺～疏水沿いを歩いて南禅寺境内を
通り14時頃、地下鉄「蹴上」駅で解散
6. 注意事項他：歩く距離約6km(多少山道の
ゆるい登りあり)
・植物園での歩道から踏み出し禁止
・生物採集禁止。
7. 募集人数：25名程度。(人数制限あり)



入口付近



行事案内



6月 月例研修会ご案内

宇陀松山城跡・薬草の里の散策

富井 忠雄

歴史的まちなみ宇陀松山重要伝統的建造物群保存地区を訪れます。

宇陀松山地区は、戦国期に在地領主であった秋山氏の居城と城下集落として誕生し、織豊期から江戸期初頭にかけて、豊臣家配下の大名によって大規模に整備されました。宇陀松山城破却後も、織田家松山藩の治世を経て、幕府領へと移り変わっていく中で、商家町として繁栄し、その活況ぶりは「松山千軒」「宇陀千軒」ともいわれ、また薬の町として江戸時代後期には、50軒を超える薬種問屋がありました。森野旧薬園は、享保14年(1792)に11代当主森野藤助が自宅の裏山に開いた日本最古の薬園で約250種類の薬草木があり、牧野富太郎とも交流がありました。

行 先：宇陀松山地区・松山城跡・森野旧薬園等

日 時：令和5年6月13日(火) 雨天実施

集合場所：近鉄奈良駅前商工会議所前 9時

行 程：商工会議所前バス一道の駅大宇陀—宇陀松山城跡—森野旧薬園—茶房あゆみ昼食—大願寺—道の駅大宇陀—万葉公園—近鉄奈良駅 16:30 行程約5km 予定(マイクロバス使用)

持 物：飲物、雨具、観察道具ほか

会 費：5000円(交通費、拝観料、昼食代など)

連絡先：富井忠雄

世話人：尾崎、藤原、富井



春の感謝祭(じゃがいも祭り)

日 時：6月22日(木) 12時より

※予備日 6月23日(金)

メニュー：ご飯(白ご飯と黒米入り)

カレー(ルーカレーとスパイシーカレー)

サラダ、デザート(当日のご期待)

注) カレー用お皿とスプーン、サラダ用のお皿をご持参ください。

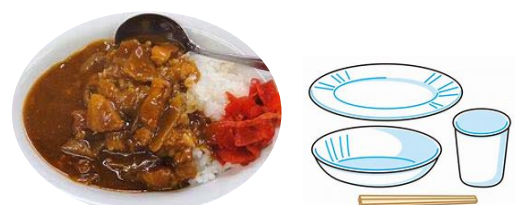
コロナが完全に収束とはいえないが、街を行く人々のマスク姿はかなり減ってきており、ならやまでも作業中はマスクをはずしている人が多くなってきました。ひと仕事を終え木陰でのティータイムはお菓子と爽やかな薫風に癒やされるおもいで、野菜の生育状況や鹿を始め害獣対策、折々のニュースに話の花が咲きます。

さて、今年も春というよりは初夏の感謝祭を上記の要領で開催します。

ならやま産のじゃがいも、新たまねぎ、にんじん等を使い、エコファームの小山さん始めグループのメンバーでスパイスの効いたカレーと野菜サラダを用意します。またご飯は今では定番になった、ならやま有機栽培で収穫した黒米入りを用意します。黒米に含まれるアントシアニンは美肌や美髪を作り出す美容効果や、視力を回復するという効果もあるといわれています。どうぞ十分にご賞味ください。

材料の買い出しや調理、竈の準備や飯炊き、大鍋でのカレーづくりや配膳など担当していただく方々よろしくをお願いします。

当日は多くの会員の皆さまの参加をお待ちしています。エコファームグループ 藤原



2023年5月度 幹事会報告

開催日：4月25日

I. はじめに

- ・総会に向けて：活動年度変更(期末を3月20日に)議案を追加。進行は各Gの活動状況と今後の取り組みについての説明と質疑を主体にして意義のあるものにしたい。

II. 会計・総務部より

- ・会員動向：入会6名退会6名 会員数149名
- ・会計：会費納入他 収支報告あり

III. 活動・行事関係

*ならやまプロジェクト関係

- ・5/4 平城宮草刈り 予備日5/11
- ・5/18 安全講習会 JAに協力依頼済み
- ・コバノミツバツツジの里山林から道路沿いへの移植、実りの森からのグミ移植についてはならやま委員会で再協議する
- ・西池の泥水をポンプで排出予定(5月)

*イベント関係

- ・9/23 ジュニア自然大学イベントでは里山体験と農作業を要望されているので要検討・
- 5/1 佐保川小学校学習支援 9:30~

IV. 企画、助成金事業案件

- ・2024年度：夏頃申請に向けて内容検討中

V. 特定議題

- ・5/20(土)13:00~15:00 総会：資料は会報誌に同封、総会・懇親会への参加、不参加は5/9までに返信を

VI. 広報関係

- ・ネイチャーなら6月号編集内容について説明

VII. 報告・連絡事項、その他

- ・月例研修会：6/13 薬草の里・宇陀松山城
- ・自然教室：
 - 6/19 京大理学部植物園予定(臨時)
 - 5/15 生駒山麓(田代先生)

VIII その他

以上



念願であった山高神代桜(山梨県北杜市)を4月3日に、見に行ってきました。今年は開花が早かったですが、何とか間に合い満

開の素晴らしい桜を見ることができました。神代桜は国の天然記念物で、三春の滝桜(福島県)、根尾谷の薄墨桜(岐阜県)とで日本の三大桜といわれています。推定樹齢が約2000年でエドヒガンザクラです。

NHKのSONGS第1回放送(2007年4月11日)で、竹内まりやが実相寺を散策し神代桜を眺めて、「人生の扉」を歌っている場面が忘れられませんでした。

20代、30代...80代の特徴を英語で肯定的に表現し、曲の最後も英語で「弱っていくことは悲しい。年をとっていくことは辛い。人生は無意味だという人もいる。でも、私は人生は生きる価値があると信じている」と歌っています。また、「満開の桜や色づく山の紅葉をこの先いつか何度見ることになるだろう」と歌っており、何度聞いても感動します。今年の秋はどこの山に、紅葉を見に行くか計画しています。

7月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動 7/6 協働活動日

*里山で遊ぼう 7/15(土) 予備日7/22

公開イベント

会員動向(敬称略)

<入会者> 5/11 上田 忍

<退会者> 4/30 上西 千代子

5/17 山本 妙子(ご逝去)

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎

千載・田中(善)・戸田・豊田

表紙写真：9月中旬に種まきをして、11月中旬に移植した玉ねぎの収穫が始まりました。